日本人と犬

縄文時代中期までの犬の特徴は、体高（肩までの高さ）が38～45cm程度の小型犬で、額と鼻にかけての凹み（額段、またはストップという）があまりなく、ほっそりした顔であったことがわかっています。こうした特徴をもった犬はアジア大陸南部が起源と推定され、約6,000年前には広く東アジア全体で飼育されていたと考えられています。

弥生時代には、渡来人によって稲作と共に新しい特徴をもった犬がもたらされ、ストップがより明瞭になりました。また、弥生人は犬を食用にしており、この風習は以後も続きます。675年の犬食の禁止（『日本書紀』天武天皇四年）や、発掘調査による解体痕のある犬の骨の出土などは犬食があったことを証明しています。また、一方では大切にされ墓に葬られる犬もありました。

江戸時代でも、食用にされた犬の骨が出土するほか、戒名や俗名、命日が記された墓石をもつ犬の墓や、三途の川を渡る渡し賃が副葬された犬も見つかっています。当時の犬は多様な特徴をもっていました。それは中国大陸だけでなく、大小様々な特徴をもった犬が長崎を通じてヨーロッパから持ち込まれた結果で、このような犬は将軍や大名にも献上されました。

中国の犬（狗）に関する故事成語

犬の忠誠心はよく知られていますが、逆に善悪に関係なく仕え、相手に吠えかかることや、身近な存在であるために軽く見られるなど、多くは悪いイメージで使われています。

◆**狡兎死して走狗烹らる**　『韓非子』(戦国時代　約2,300年前)
すばしっこいウサギが死ねば猟犬は不用となり煮て食べられてしまう。
→敵が滅ぶと重臣は不用となって謀殺されてしまうことのたとえ。

◆**狗吠緇衣**　『韓非子』(戦国時代　約2,300年前)
緇衣は黒い服。忠誠心のある犬でも、主人の服の色が変わると吠えてしまう。
→人は外見が変わると、内面も変わってしまったと思うことのたとえ。

◆**跖の狗、堯に吠ゆ**　『戦国策』(前漢　約2,000年前)
跖という名の大盗賊の飼い犬は、伝説の聖天子である堯にでさえも吠えかかる。
→犬は善悪に関係なく主人以外に吠えるが、人は主人のためであっても善悪に関係なく尽くすべきではないという戒め。

◆**狗猪もその余りを食らわず**　『漢書』(後漢　約1,900年前)
→犬やイノシシでさえも道に外れた行いをする人の食べ残しは食べない。

◆**犬馬之養**　『論語』(後漢　約1,800年前)
犬馬を養うのと同じように気持ちを込めないで養うこと。
→ただ養うだけで敬う心の欠けている親孝行のやり方を戒めることば。

◆**狗尾続貂**　『晋書』(唐　約1,700年前)
狗尾は犬のしっぽ。貂はテンの尾で飾った冠で、高位高官の者が着けた。
西晋の趙王が一族の者を高位高官に任用したとき、人々が「今に貂がなくなり、代わりに犬のしっぽを着けるようになるだろう」とののしった。
→優れた人物の後につまらない人物が続くことのたとえ。

＜参考文献＞
設楽　博己　2015年『十二支になった動物たちの考古学』新泉社
大場　磐雄　1996年『十二支と十二獣』美巧社
来村多加史　2005年『キトラ古墳は語る』生活人新書148　日本放送出版協会
加藤　迪男　2010年『十二支（えと）のことわざ事典』日本地域社会研究所
諏訪原　研　2005年『十二支の四字熟語』大修館書店
鄭　高詠　2005年『中国の十二支動物誌』白帝社

主　催　兵庫県立考古博物館加西分館
後　援　兵庫県　兵庫県教育委員会

平成29年度 冬季スポット展示　解説資料

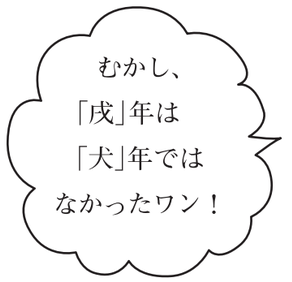
干支（えと）戌（いぬ・ジュツ）

平成30年 1月2日（火）～ 3月13日（火）

犬を飼う世帯は全国で18％にのぼり、犬の数は1,200万頭近くにも達するそうです（社団法人ペットフード協会　平成23年度統計）。こうした日本人と犬とのつながりは、約9,000年前の縄文時代には始まっていました。

縄文人は犬を狩りのパートナーとして可愛がり、犬が死ぬと穴を掘ったお墓に丁寧に埋葬しました。これほど長期間にわたって人と身近だった動物は他にいません。

今回のスポット展示では、本年の干支（えと）である「戌」にちなんで、中国における干支（かんし）（十干十二支）、十二生肖（せいしょう）と、そこに登場する「戌」「犬」と人との関わりについて解説します。



疾駆する十二支の犬
十二支が動物で表されている
（パルメット唐草十二支紋鏡　唐　約1,400年前）

兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

10種類の十干と、12種類の十二支を組み合わせた60種類の十干十二支の表（西暦や元号が使われる以前、年を表すために使われた。60年で一巡するので、「還暦」のことばが生まれた）

| 通番 | | |